

来週の '売り物'、記事はこれ



2016年2月26日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

渡辺雄太選手 NBAに最も近い男

28日(日)



日本勢で米プロバスケット「NBA」に最も近い存在と言われる選手がいます。名門の米ジョージ・ワシントン大でプレーする渡辺雄太(21)です。香川・尽誠学園高校2年の時に史上最年少で日本代表に選ばれ、3年になる2012年春、「僕は、やっぱりアメリカに行きたい」と決意。母親は「英語もできないし、大変よ」と心配しましたが、シャイでおとなしい渡辺がこの時は譲りませんでした。過去、NBAでプレーした日本の選手は田臥勇太ただ一人。その田臥は渡辺の才能を早くから見抜き、面識もない彼の父に電話して「ぜひアメリカに挑戦してほしい。行くべきだ」と説得しました。選ばれた者だけがたどりつける最高峰の舞台を目指し、本場・アメリカで戦い続ける渡辺と、彼を支える元バスケット選手の両親の足跡をたどります。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

原発の危険性を訴え続けて35年

京大原子炉「熊取6人組」の軌跡をたどる

夕刊2面特集ワイド 3月1日(火)



京都大原子炉実験所(大阪府熊取町)で「熊取6人組」と呼ばれた研究者たちが、約35年にわたって原発の危険性を訴え続けてきました。その中で最後の現役だった今中哲二助教=写真=が3月で定年退職します。折しも3月は東京電力福島第1原発事故から5年にあたり、4月には旧ソ連・チェルノブイリ原発事故から30年を迎えます。今中さんはチェルノブイリでの調査を重ね、福島の被災地にもいち早く駆けつけました。今中さんを中心に、「6人組」の軌跡をたどりました。

「女の気持ちをたずねて」 おんなのしんぶん 29日(月)

「くらしナビ」面で長年連載している「女の気持ち」に投稿した読者を訪ね、その後の様子などを描くコーナー。今回は、東京社会部の林田七恵記者が、神奈川県厚木市の羽成幸子さん(67)を取材しました。

小学校の高学年で「私の人生、私のもの」と決意したという羽成さん。結婚も、趣味で購読していた特許の専門紙に「お嫁に行きます。条件は、大学で勉強させてくれること」と広告を出しました。電報で連絡してきた夫と結婚し、1男3女を育てている間も、趣味や勉強を続けていたとのこと。今は孫の面倒をみながら、充実した日々を送っています。自分らしく、前向きに生きる羽成さんの様子を生き生きと描いています。



食物繊維で満腹ダイエット くらしナビA面 3月1日(火)



少しずつ春めいてきました。軽やかな薄着の季節になりましたが、体についての余分な脂肪が気になる人も少なくないと思います。連載「浜内千波のかしこいお料理」の最終回は、ぜひダイエット。バランスよく食べながら、すっきりやせるための食事について考え、2品を紹介します。健康的にやせるダイエット方法に取り組んできた浜内さんの「お言葉」もあります。

連載「スタート ひとり暮らし」

くらしナビA面 3月2日(水)から3回

進学や就職、単身赴任で、この春から初めて1人暮らしをするあなた——。新しい街での暮らしに期待と不安が入り交じり、戸惑ってはいませんか。快適な1人暮らしをするために、「食」の自立と、すっきり片付いた部屋は不可欠です。最低限、準備した方がいいことを3回にわたり紹介します。1回目は「自炊のためのキッチン用品」です。



学問は巨大災害の脅威にどう挑むのか

論点 地震予知と防災

オピニオン面 [論点] 3月4日(金)



地震予知が注目されるきっかけとなった「東海地震」説が唱えられて40年を迎えます。大災害の危機を察知してリスクを押さえるというのが地震予知の眼目でしたが、東日本大震災の猛威の前に無力でした。しかしながら、南海トラフ地震の危険性が指定されるなか、それに替わる学問領域は見当たりません。地震予知と防災について、専門家が最新の知見を説きます。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

八犬伝の舞台を訪ねて

朝刊文化面 3月5日(土)

名高い文学作品のゆかりの地を歩く「名作の現場」で、エッセイストの酒井順子さんが取り上げるのは江戸時代後期の戯作作家、曲亭馬琴の「南総里見八犬伝」です。訪れるのは作品の舞台となった千葉県房総半島。ひと足早い春を感じつつ、因果応報と勧善懲悪をテーマに壮大なスケールで繰り広げられる八犬士の物語に思いを馳せます。

